

<平成29年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

秋田県 秋田市立御野場中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

- 期 日 : 平成29年9月14日 (木) 、15日 (金)
- 場 所 : 秋田市立御野場中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (31名) 、2年2組 (31名) 、2年4組 (31名)
- オリンピック : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・鶴岡先生から自己紹介をした後、今日の授業を通して鶴岡先生から自己紹介。今日の授業ではオリンピックについて学んでいくが、感じたこと、学んだことを通して、目標のためにどう活かせるかを考えようとする目的を確認。
- ・運動の時間は一生懸命全力で取り組むこと、クラスの仲間と協力して相談すること、人の話をよく聞いてルールを守ることの3つを約束し、準備体操とミニゲームを実施。

3. 主運動



- ・3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間に連続して跳んだ回数を競い、引っかけたら50から数え直すこととする。
- ・各回終了後、各チームから最大回数を発表。60秒間の作戦タイムを設け、どうすればより多く跳ぶことができるかを話し合う。

4. まとめ



- ・8の字跳びで120回跳ぶことができたチームを拍手で称え、一生懸命考えて作戦を立て、集中して実践できていたことを伝える。
- ・運動の時間にどのような方法を考えて目標を達成したか、よかったことを考えながら教室に戻るよう伝え、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・簡単な自己紹介の後、座学の時間ではオリンピックと日常生活をつなげて考えてみようという授業の目的を確認。
- ・トノ大会の映像を見せながら競技について紹介し、鶴岡先生の経験談を交えながら3つのオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューについて考える。

発表：全力で取り組んだ、跳び方や回し方を工夫した（エクセレンス）、記録を伸ばすために協力して取り組んだ、協力することで喜びを共有できた、円陣を組んだ、声を掛け合った（フレンドシップ）、跳ぶ人を思いやって縄を回した、アドバイスし合った（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックが目指すものはみんなが日常生活の中で目指すものにも共通しており、みんなが取り組んでいることはオリンピックに込められた願いに通じるものである。今日の授業でオリンピックについて学んだが、みんなが理想とする自分の姿、学校生活での目標に向かって、どのように努力するか、今日の自分より明日の自分を少しでもよくなるために、365日後、3650日後の姿を考え、どんな自分になりたいのかを思い描いて、努力してほしい。目標達成に向けて努力する過程で、失敗したり悩んだりすることもあると思うが、オリンピックバリューが必ず役に立つので、覚えておいてほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年9月14日 (木)、15日 (金)
- 場 所 : 秋田市立御野場中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (31名)、2年5組 (32名)、2年6組 (31名)
- オリンピアン : 佐藤 真太郎 先生 (ボブスレー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・佐藤先生から自己紹介した後、オリンピックシンボルの意味やオリンピックバリュー、ボブスレー競技について簡単に説明。
- ・運動の時間ではうまくなるために努力する (エクセレンス)、みんなで盛り上げる (フレンドシップ)、相手に敬意を払う (リスペクト) ことを意識して取り組むよう伝え、準備体操を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・3組ではボール運びリレーを実施。2チームに分かれて、2人組でボール1個を運び、15m先のマーカーを回ってスタート地点に戻る早さを競う。2回目は4人でボール3個を運ぶこととした。
- ・5組、6組ではランニングドリルの後、ボール運びを実施。バスケットコートのサイドラインに全員整列し、中央の生徒がボールを持つ。ボールは右隣の人のみ手渡しすることができ、生徒はバスケットコートのライン上を左側へのみ移動することができる。ボールをコート上を一周させてスタート位置に戻すまでのタイムを計る。

4. まとめ



- ・運動の時間を振り返り、考えて実践することの大切さを感じられたのではないかと話し、効率よく目標を達成するために考えることが大切だと話す。次の座学の時間ではオリンピックについて詳しく話すと予告して、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・佐藤先生から改めて簡単に自己紹介した後、座学の時間ではオリンピックやオリンピックバリューについて説明すると目的を確認。
- ・スライドを用いてボブスレー競技や近代オリンピックの復興について説明し、中学生の頃の話やオリンピックに出場した経験を交えてバリューについて説明。

3. グループワーク



発問：クラスをよりよくするためにできることをオリンピックバリューに当てはめて考える。

発表：係や委員会の仕事に責任をもつ、積極的に意見を言う、自分の発言に責任をもつ(エクセレンス)、みんなのために行動する、挨拶する、周りを笑顔にする(フレンドシップ)相手のいいところを認める、個性を尊重する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・「自分の発言に責任をもつ」と書いてくれたように、出した意見を1つずつ実行して、継続することでよりよいクラスになる。トップアスリートが取り組んでいること(バリュー)はみんなの日常で活かせることだと話し、今日学んだこと、感じたことを今後活かしてほしいと改めて伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組



■ 集 合 写 真

2年5組



2年6組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



2年6組



■ 証明書贈呈

